

種子島の焼物

能野焼から種子島焼へ

再興に尽力した人々



新刊発売のお知らせ

種子島の焼物「能野焼から種子島焼へ」再興に尽力した人々

濱地光男著 A5判 128ページ 定価2,000円(税別)



購入は Book Way、Amazon または最寄りの書店にてお取り寄せください。

この度、種子島の焼物「能野焼から種子島焼へ」再興に尽力した人々と題した書籍を刊行致しました。

種子島では江戸時代から明治時代まで生活雑貨を主とした能野焼、野間焼など島を代表する焼物として伝承されてきました。時代と共に本土と島との交通手段の発達に伴い、島には本土や中国からの安価な陶磁器が売られるようになり、窯の火は消えることになりました。しかしながら太平洋戦争後、昭和の高度成長期を迎え島と能野焼を愛し再興を願う人々の努力で、陶磁器研究家の第一人者小山富士夫氏の心を動かし、再興に唐津の陶芸家中里隆氏を推薦され来島。

中里隆氏は独自の窯を築窯、陶工の育成に尽力され、新たな種子島焼として再興を果たすことができました。

能野焼 種子島

本書は種子島の産業や焼き物の歴史をはじめ、種子島の焼物の再興に尽力された方々にもスポットをあて、種子島窯のできるまでと現在の島の焼物の現状を纏めたものであります。

本書が少しでも素晴らしい歴史と文化を秘めた種子島を知っていただき、種子島焼が全国に知られ、多くの陶芸家の集う島になるよう願いを込め、島の発展の一助になれば幸いです。

2020年8月吉日 濱地 光男

目次の紹介

はじめに

種子島はどこにある

島の概要

島の歴史と産業

種子島の焼物

能野焼の起源

能野焼

野間焼（中種子焼）

能野焼の再興に向けて

再興と種子島焼の誕生

種子島焼の呼称と命名

株式会社種子島陶芸の設立

再興に尽力した人々

種子島窯・中里隆氏に弟子入り

行政（西之表市）

種子島家

株式会社種子島陶芸（種子島窯）

種子島焼を伝承する窯元

築窯と廃窯

種子島の陶土（化学分析）

資料編

種子島窯 資料集

参考文献・その他資料

ご購入は、ブックウェイ (Book Way)、アマゾン (Amazon)、最寄りの書店にて取り寄せできます。2020年10月31日までは左記の連絡先にお申込み頂ければ、1冊 2,000円 (税、送料込) で発売記念として特別に購入できます。送り先、お名前、電話番号、希望の冊数をお知らせください。(振込手数料はご負担願います) 連絡先 Email mhamaji@unichemy.co.jp 濱地光男宛